

事 項	ダイズわい化病の一次感染時期		
ね ら い	<p>だizensの安定生産を図る上で、ダイズわい化病の発病は大きな阻害要因となっている。</p> <p>ダイズわい化病は、ジャガイモヒゲナガアブラムシによるほ場外からのSbDV-YS伝搬（一次感染）及びほ場内伝搬（二次感染）によって蔓延する。</p> <p>平成7年度の指導参考資料では、一次感染と二次感染を含む感染最盛期はジャガイモヒゲナガアブラムシの飛来最盛日以降になることを示した。今回、だizens幼苗をほ場に暴露することで、一次感染時期が明らかになったので、防除対策上の参考に供する。</p>		
指 導 参 考 内 容	<p>1 一次感染時期</p> <p>暴露株での有翅虫によるダイズわい化病の一次感染時期は、5～6月の2か月間にほぼ限定される。</p> <p>2 一次感染の防除時期</p> <p>有翅虫の飛来消長は年次によって変動するが、一次感染防止のための重点防除時期は、出芽始め～6月末である。</p>		
期待される効果	ダイズわい化病の一次感染時期が推定できたことにより、薬剤散布等の効率的な防除計画の策定が可能になる。		
利用上の注意事項	7月以降の二次感染防止のための防除対策も必要である。		
担 当	青森県農林総合研究センター畑作園芸試験場 病虫害防除室 (独)中央農業総合研究センター 虫害防除部	対 象 地 域	県下全域
発表文献等	<p>平成11～14年度青森県畑作園芸試験場成績概要集</p> <p>平成15年度青森県農林総合研究センター畑作園芸試験場成績概要集</p>		

【根拠となった主要な試験結果】

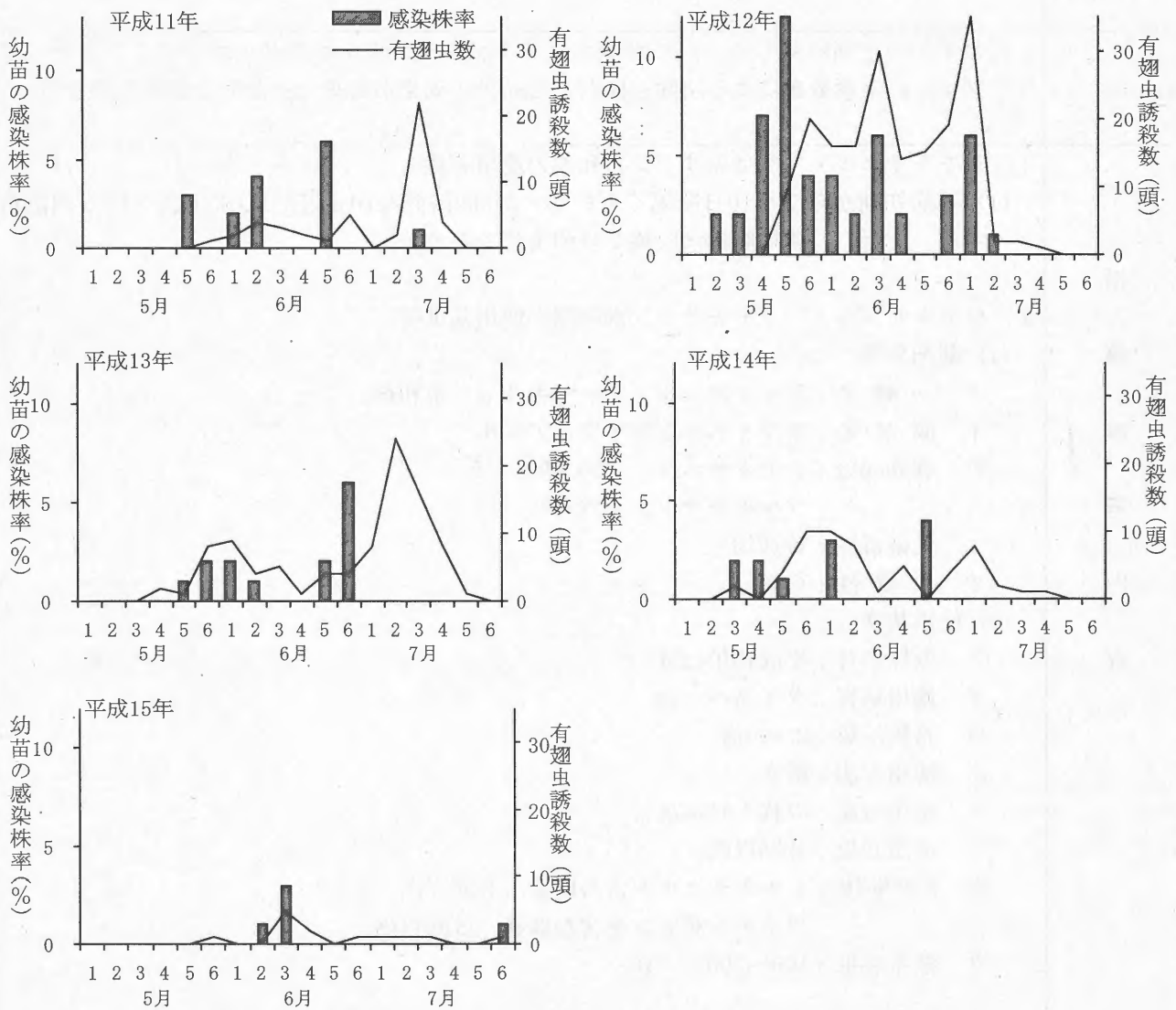


図1 だいず幼苗トラップの暴露時期別感染株率と黄色水盤における有翅虫誘殺消長 (平成11～15年 青森農林総研畑園試)

- (注) 1 だいず幼苗 (品種: オクシロメ; 本葉 1、2 枚展開苗) は、黄色水盤容器に入れ、各時期に100株をだいずほ場脇に暴露した。回収しただいず幼苗は、殺虫剤を散布した後網室で隔離栽培し、感染の有無を葉を用いてELISAで検定した (ELISAでの検定は中央農研担当)
- 2 有翅虫はほ場内に設置した黄色水盤での誘殺消長